



色の付いた馬が出て来て、「これらの馬は何ですか」の問いに「これらは、地を巡るために主が遣わされた者たちだ。」すなわち、地の方々に主／神が遣わした者。御使い／天使。馬は古代世界においては非常に素早い、あっという間に駆け巡って行くスピーディーな動物でした。世界がいかに広くても、神の命令を受けてスピーディーに行き巡って来た天使たちを、色の付いた馬になぞらえているのです。

黙示録 6 章に出て来る 4 つの色の馬は天使のことなんですね。但し、良い天使ではないんです。サタンの手下になっている天使。墮天使。悪い天使。人類に悪意を抱く存在。しばしば悪霊と言われている存在。そう考えて間違いないと思います。悪意の天使／墮天使たちが、人類に災いをもたらすために飛び出して来た。

### ポイント 2) 彼（赤い馬に乗る者）に大きな剣が与えられた

これは、艱難時代初期に戦争が起こるということです。

艱難時代には 3 つの戦争が起こります。初期のこの戦争・中間期の反キリストが起こす戦争・最後にハルマゲドンの戦い。

この 1 回目の戦争も決して小さいものではありません。というのは、大きな剣が与えられた。非常に殺傷能力の高い兵器が用いられるんですね。

なぜ大きな戦争になるのか？ 今は世界に 208 の国がありますが、艱難時代に入ったこの時代は 10 か国しかないんです。

今の世界人口を仮に 80 億人と見積りましょう。80 億人が 10 か国に再編成されると、1 つの国の人口規模は 8 億人ですよ。中国やインドまでとはいかなくても、それよりも一回り小さいくらいの国。

8 億の人口を擁する国って、飛び抜けて大きいと思いますね。

そんな巨大国家が 10 個競い合っているような時代が艱難時代なんです。

このような凄惨な規模の国々が互いに戦争するとすると、地域紛争では収まりません。

大国同士の戦争になるので大きな被害が出る。それで、彼に大きな剣が与えられた。

### ポイント 3) それに乗っている者は、地から平和を奪い取ることが許された

許された。許可を取ってそれをやった。誰が許したんでしょうか。神なんです。

ここの意味は、サタンや墮天使がいかに人類の滅亡を望んで働きかけようとしても、それらは無制限に働くことはできない。神が許した範囲内でなければ、彼らは活動できない。

人類を一気に滅ぼしたいのがサタンの本心でしょう。しかし、神が許可した範囲内でのみしか活動できない。どんなに酷いことが起こっている時でも、神の主権は働いているということです。

今日一日を振り返って、皆様 いかがでしたでしょうか。いい一日だったら幸いですね。

でも ある方々にとっては、とつても残念な一日、がっかりするような出来事があった一日、悲しいことが起こった一日かもしれません。「神なんかどこにいるんだ！」と言いたくなるようなことが起こったかもしれません。がしかし、神は働いておられる方です。

この戦争で大勢の人々が亡くなりますが、同時にこの時に、人類史上最も多くの人々がキリストを信じて神に立ち返る、ということが起こっているんですね。

それは、ここだけ読んでても分かりません。他の箇所にもそう書いてあるんです。

ですから、不幸にフォーカスすると実に悲惨なことしか分からないのですが、そのようなことを神がお許しになる時には、必ず良き意図・目的があります。

ということで、今日も私たちの人生の中に、良き方の支配が及んでいることを思い起こす者でありたいなと思いました。

次回はこの続きをお話したいと思います。もしよろしければ、チャンネル登録をお願いします。

ではまた このチャンネルでお目にかかりましょう。皆さん、お元気でいてください。さよなら！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。